

	<p>シーズ名</p>	<p>製品デザイン評価システムの多面的拡張(創造性・都市・地域経営)</p>
	<p>氏名・所属・役職</p>	<p>岡野 浩 都市研究プラザ・経営学研究科・教授</p>
<p><概要></p> <p>トヨタ自動車において(トヨタ生産方式とともに)1960年代に開発された、製品別マネジメントシステムである「原価企画」は、設計に直接関係する原価を「原単位」(時間・物量)と「レート」との分ける、画期的なシステムである(参考:岡野浩・小林英幸編・トヨタ自動車技術部協力『コストデザイン』大阪公立大学共同出版会、2015年)。</p> <p>ここでは、原価要素(環境コスト・意匠デザインコスト・サービスコスト)を拡張したり、大量生産品ではなく農作物や手芸品、芸術品などこれまでコストや利益管理になじまなかったモノを始め、地域や特定エリア全体のコスト、博物館や植物園、動物園などの様々な単位に適応することにより、地域・まちづくりに貢献する「マネジメントシステム」を構築する。</p> <p><アピールポイント></p> <p>大阪市立自然史博物館や鶴見緑地、万博記念公園、など、様々な機関からの協力により、実践に使えるシステムを構築するとともに、このノウハウをアジアや欧州などの諸機関にも展開することを目指している。(参考:岡野浩・塚腰実著『メタセコイアと文化創造:ボタニカル社会デザインへの招待』大阪公立大学共同出版会、2015年)</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>経営学や経済学をはじめ、特定の領域に留まらず、農学・生態学・植物学・博物館学・文化人類学・薬学・宗教学など、様々な領域を包含する。</p> <p><関連する知的財産権></p> <p>経営管理システムにも認められている「ビジネスモデル特許」を共同で申請することを目指している。</p> <p><関連するURL></p> <p>http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/index.html</p> <p>http://rdbsv02.osaka-cu.ac.jp/profile/ja.iMTL112TqPfG6bPnzqTJIQ==.html</p> <p><他分野に求めるニーズ></p>		
<p>キーワード</p>	<p>製品・デザイン・創造性・原価企画・トヨタ生産システム・コストデザイン・ボタニカルデザイン</p>	



シーズ名

東アジア都市間相互交流ネットワークの形成による地域貢献及び人材育成プログラムの創生

氏名・所属・役職

全泓奎・都市研究プラザ・副所長(教授)

<概要>

東アジアの都市間比較という国際比較的な共同研究に基づいた活動を中心に進めながら、とりわけ都市内の特定地域への「社会的不利」の集中に焦点を当て、そのメカニズムを究明するための国際共同による実践的な調査研究(アクションリサーチ)を遂行してきた。即ち、実証的な研究とそこから得られた知見を実践に活かすための回路の確保を目指し、当該問題や地域に関連した関係者との共同研究を行うことで、都市間協力のネットワークの構築を推し進めている。研究対象地域の範囲は、右表に示す日本を

	対象地域写真	対象地域	地域特性	社会資源
日本		被災地域、簡易宿所密集地域(寄せ場)、同和地区、エスニックコミュニティ他	復興住宅、公営住宅、単身高齢者、生保世帯など困窮層の集中、若年層の流出、コミュニティ基盤の沈下、不健康、孤立等	解放同盟・まちづくり協議会、人権協会、民団、釜ヶ崎のまち再生フォーラム、山谷ふるさとの会、ビッグイシュー他
韓国		スクオッター(ピニルハウス)地域、チョッパン地域、公営住宅地、多文化特区、チャイナタウン他	Flophouses、日雇い・非正規職、高齢単身男性、長期失業、家族崩壊、強制立ち退き、移住労働者、結婚移住者等	URPソウルセンター、韓国都市研究所、KCHR、韓国ホームレス研究会、全国ホームレス連帯、ソウル市立大学、社会的企業
香港		深水埗(Sham Shui Po), Kwun Tong, Tai Kok Tsui 他	Cubicles, rooftop huts, bed-space apartments, cage-homes、日雇い、高齢者、新移民者等	URP香港センター、香港社区組織、香港大学
台湾		萬華(Wanhua)、南機場国民住宅、平價住宅、都市原住民居住地他	Flophouses、日雇い、単身男性、原住民、移住労働者等	URP台北センター、社会住宅推進連盟、NPO芒草心、国立台湾大学、OURs、台北市社会局

始めとする東アジアの4つの近隣国・地域の都市部の社会的不利地域(公営住宅団地、エスニックコミュニティ・簡易宿泊所密集地域、被災地域、被差別部落等)である。これらの地域における最先端の都市問題に対応するため、当該地域における負の地域効果のプロセスを同定し、かつ可視化していくための指標の開発や生活史のアーカイブ化を試みる。そしてインクルーシブな地域再生のビジョンの模索と実践手法の開発に向けた研究を行い、当該地域の地域実践に応用していく点に、本研究の特色と社会的意義がある。上記した各々の都市に散在する不利地域は、日本のみならず東アジアに通底する都市問題であることがこれまでの共同研究や相互交流のプロセスの中で明らかになっており、既にそれらの基礎的な理解を得るための入門書を共同研究者の協力によって刊行した(全泓奎編(2016)『包摂都市を構想する:東アジアにおける実践』、法律文化社)。

<アピールポイント>

昨今、グローバルな都市再編のなか、貧困や社会的排除の拡大に関心が高まっている。しかし、社会的排除がどのように地域やある特定のコミュニティと結び付いていくのかについての関心は低いままである。地域やコミュニティをより包摂的な形に組み替えていくことが、このような問題の解決に繋がる道筋を作る。それを実現していくための地域再生の手法は東アジアの都市で共有され、各都市間を往還しながら、都市行政、研究者、NPO スタッフ間による都市ネットワークのプラットフォームを構築してきた(全6回実施済みの東アジア包摂都市ネットワークワークショップ、下記URL参照)。

<利用・用途・応用分野>

いわゆる社会的不利を被っている地域の再生や、コミュニティビジネスなどを考える際に応用可能な分野である。なお、それを実現するためには、地元コミュニティ主導の実践のみならず、都市行政や当該テーマに関わる利害関係者間の相互交流や、その担い手となる人材育成分野(オンサイトでの研修等)で応用が可能である。

<関連する知的財産権>


特になし。

<関連するURL>

- 1) 東アジア都市貧困層の居住問題解決に向けて一ソウル国際シンポジウムを開催
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2015/przfdg>
- 2) 第6回東アジア包摂都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップ 報告書(URP Report Series 36)
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/wp1/wp-content/uploads/2016/05/report-series-36.pdf>
- 3) 第1回都市研究プラザ国際実践夏季セミナー@ソウル 報告書(URP Report Series 37)
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/wp1/wp-content/uploads/2016/05/URP_report37.pdf

<他分野に求めるニーズ>

キーワード アジア都市 地域再生 都市行政 人材育成(研修・交流) 居住福祉

	シーズ名	サーマルグリッドシステム
	氏名・所属・役職	中尾正喜・複合先端研究機構・特命教授

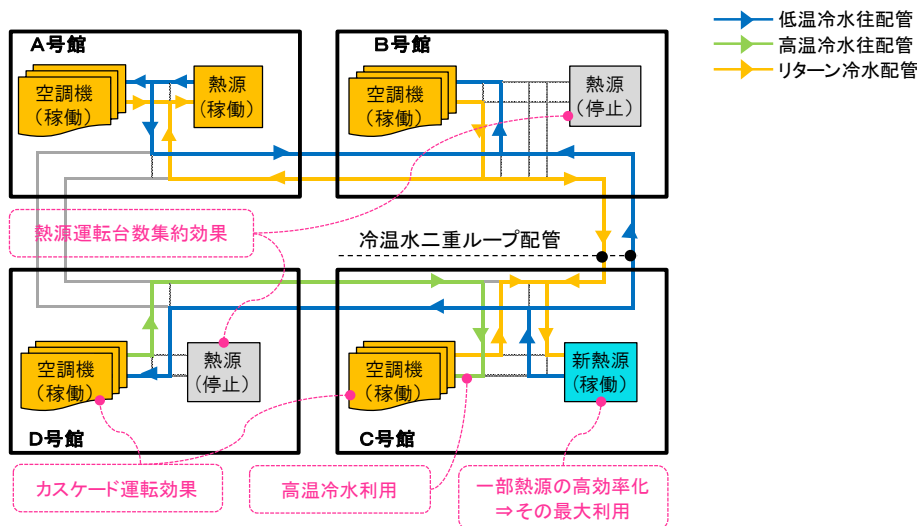
<概要>

既存街区にある複数ビルの既設空調熱源設備を対象都とし、わずかな投資で一次エネルギーを大幅に削減するシステム構築技術です。空調用の冷温水を複数ビル間で自在に双方向に融通する仕組みにより、搬送動力込みで効率の高い熱源設備を優先運転することや、選択された熱源設備を効率の高い運転を実現します。

各負荷（空間に必要な空調の冷温熱）と各熱源（熱を生み出す機器）間をダブルループ管路で接続し、自在に双方向に熱融通するためのルーター配管（サーマルルーター）と、負荷の要求に応じて最適な熱のルーティングを決定する最適化モデルからなる画期的なシステムです。

このシステムにより、一般的なビルで3～4割程度の省エネルギー化と、設備導入・運用のコスト負担を低減することが期待されます。

現在、さらにアドバンスなパケット熱輸送によるサーマルグリッドの研究を進めています。



引用：28年度環境白書

<アピールポイント>

本基本技術は環境省の「廃熱利用等によるグリーンコミュニティ推進実証事業」により大阪の国際展示場において社会実証済みであり、負荷率の極めて低い特殊な施設ではありますが、平成27年度の実証では、システムを導入することにより、夏期において、CO₂排出量を未導入時の166トン（推計）から48トン（実績）と、70%以上削減することができました。

<利用・用途・応用分野>

実証において明らかとなった課題（システム構築の簡易化、最適化計算の信頼性向上）に取り組んでおり、課題解決により、中央熱源方式の空調設備からなる建物で構成される小規模街区にも応用可能となります。

<関連する知的財産権>

特願 2012-253544, 熱エネルギー搬送システム、熱融通システム及び熱エネルギー搬送方法

<関連するURL>

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2014/ezrqm9>

<http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000278412.html>

<他分野に求めるニーズ>

キーワード	熱融通, サーマルグリッド, 地域エネルギーマネジメント, 省エネルギー, 低炭素化
-------	--



シーズ名

下水用熱交換器

氏名・所属・役職

中尾正喜・複合先端研究機構・特命教授

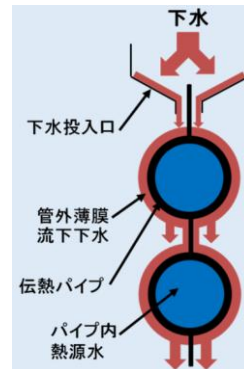
<概要>

未処理下水など夾雑物の多い水を対象に熱回収するための流下液膜熱交換器および下水管底部に設置する熱交換器の開発技術を保有しています。

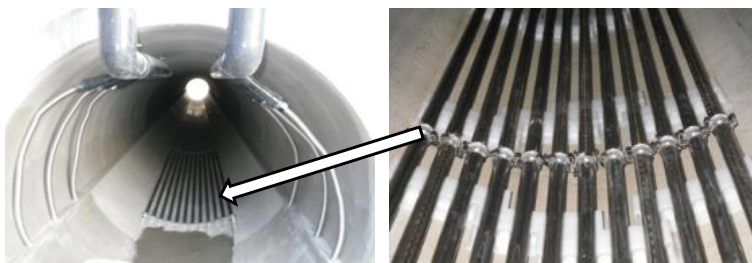
流下液膜熱交換器の対象となる水は未処理下水，食品産業など産業排水であり，排水の液膜による自己洗浄効果があり，シェル&チューブなど他の形式の熱交換器と比べて，汚れによる性能低下が少なく，洗浄など保守が容易などの特長を持っています。本学では熱伝達率の性能予測や排水の液膜形成機構などノウハウを有します。下水処理場の消化槽排出汚泥など粘性の高い排水からの熱回収にも使用可能です。下水管内に設ける熱交換器の構成，性能に関する研究成果も提供可能です。また，下水取水の小型スクリーンについても研究開発経験があります。



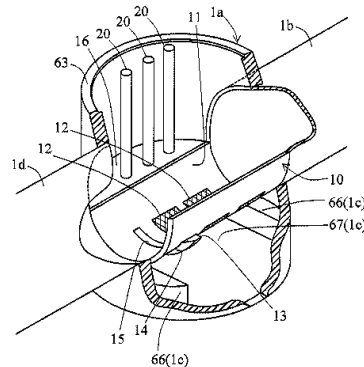
流下液膜熱交換器



流下液膜熱交換器断面



下水管内熱交換器



下水マンホールに設けるスクリーン装置

<アピールポイント>

下水や汚泥用に保守性に良い熱交換器を研究開発してきたので，開発成果は温浴施設，宿泊施設などの排湯熱回収用として，使用可能です。また，回収した熱は給湯用の予熱や給湯・暖房用ヒートポンプ熱源として利用できます。

<関連する知的財産権>

特開 2014-43967(P2014-43967A), 熱交換器

特開 2015-059328 下水取排水装置及び下水熱利用システム

特開 2014-001503 スクリーン装置および下水熱利用システム


<関連するURL>

http://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_100101.html

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/mizukokudo_sewage_tk_000458.html

<他分野に求めるニーズ>

キーワード 下水熱，未利用熱，排水熱回収，省エネルギー，低炭素化，温浴施設，宿泊施設

	シーズ名	グローバル時代・グローバルビジネスにおける異文化理解と問題対処法
	氏名・所属・役職	潘 山海・都市研究プラザ・特任准教授
<p><概要> 今はグローバル時代！それにグローバル的にビジネスを行う”グローバルビジネス”行為も日常茶飯事となっている時代！これは企業だけでなく、個人や団体、自治体や学校なども、外国や外国人との接触・交流、雇用・教育、共に仕事する・共に勉学・研究するなどのようなことを日本のどこかで日常的に行っている。特に、少子高齢化による人口減少の日本の国内市場が縮小傾向にあるにつれ、デフレ持続や消費の低迷続き、一部の学校も学生定員割れ・学部閉鎖が余儀なくされ、日本国内製造業の業績も停滞している一方、アジアの新興国の市場や若者人口が急速に拡大している。これは日本の絶好のチャンスだと取られて、日本の国内市場と海外市場とをリンクとする傾向が増えているだけでなく、国内の厳しい経営環境を回避するため、企業や団体、学校までが海外進出を選択しているケースも稀ではない。このよう時代・状況の中で、日本人が外国人との交流や共に働く機会が急増するにつれ、外国人との意思疎通の衝突・障碍やトラブルも頻発し、解決策を探るのが急務となっている。これらの衝突・障碍やトラブルの主な原因がお互いの文化「異文化」に対する無知や無視・不理解・不慣れなどによるものである。本研究は、異なる文化「異文化」の特徴を解明し、異文化に対する理解を深め、日常や職場、ひいてはグローバルビジネスの中での異文化衝突・障碍やトラブルを解決する方策を提案するものである。</p>		
<p><アピールポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人として、文化とその特徴ポイントを把握できる。 2. 異なる文化「異文化」への認識・理解を深められる。 3. 異文化の人とのコミュニケーションの心構えが育てられる。 4. 「異文化」衝突・障碍のバックグラウンドが理解できる。 5. グローバル時代の異文化問題対処法をマスターできる。 		
<p><利用・用途・応用分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人との遣り取りを必要とする個人・団体 2. 外国人を雇用するまたはしようとする企業 3. 海外進出するまたはしようとする企業 4. 海外へ赴任予定の各種要員・留学生 5. 海外から帰国した人員へのケア 6. 異文化コミュニケーション教育を必要とする学生 		
<p><関連する知的財産権> なし</p>		
<p><関連するURL> なし</p>		
<p><他分野に求めるニーズ> グローバルビジネスにおける異文化コミュニケーション能力で異文化衝突・トラブルを回避・解決する方策・事例。</p>		
キーワード	グローバル時代、グローバルビジネス、異文化と異文化理解、異文化コミュニケーション、異文化・多文化経営、異文化マーケティング	